

---

---

# 2018年度 聖学院大学

## 教員免許状更新講習 募集要項

---

---

### = 募集期間 =

2018年4月14日(土) 10:00 ~ 4月20日(金)

※先着順に受付し、定員に達し次第終了します。

### = 講習日程 =

[必修領域] 2018年8月2日(木)

[選択必修領域] 2018年8月3日(金)

[選択領域] ① 2018年8月6日(月)

② 2018年8月7日(火)

③ 2018年8月8日(水)

[時間(全日程)] 9:00~16:40

※1時間ごとに10分休憩(昼休みは1時間)

### = 受講資格 =

普通免許状または特別免許状を有し、平成31年3月31日が修了期限で、修了に必要な受講時間に達していない方、もしくは平成32年3月31日までに修了確認期限がある方。※旧免許状の場合は生年月日が下記の方になります。

昭和38年4月2日~昭和39年4月1日 }  
昭和48年4月2日~昭和49年4月1日 } 修了期限：平成31年3月31日  
昭和58年4月2日~昭和59年4月1日 }

昭和39年4月2日~昭和40年4月1日 }  
昭和49年4月2日~昭和50年4月1日 } 修了期限：平成32年3月31日  
昭和59年4月2日~ }

### 聖学院大学 教務課

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL:048-780-1801

FAX:048-780-1804

e-mail: kyoshoku@seigakuin-univ.ac.jp

大学HP: <https://www.seigakuin.jp>

月~土(9:00~17:00)

---

---

## ◆ 申し込みについて

### < 申込方法 >

聖学院大学HPの『教員免許状更新講習』ページの「申込フォーム」に入力⇒送信してください。

(URL: [https://www.seigakuin.jp/events/11\\_learn/tch/](https://www.seigakuin.jp/events/11_learn/tch/))

※「申込フォーム」は4月14日(土) 10:00よりWeb公開となります。

**※先着順となり、定員に達し次第受付を終了いたしますので、お早めにお申し込みください。**

※登録内容に不備があった場合、受講を許可できない場合がありますのでご注意ください。

※4月15日(日)、22日(日)および4月29日(日)から5月6日(日)は事務局閉鎖につき、お問い合わせを受け付けられません。予めご了承ください。

## ◆ 受講までの手順

### 1. 申込受付通知

申し込み完了後、ご登録いただいたe-mailアドレス宛に「申込受付通知」を送信しますのでご確認ください。

※WordやPDFのファイルを保存・印刷ができるe-mailアドレスをご登録ください。

※受講の仮決定通知ではございませんのでご注意ください。

### 2. 受講の仮決定通知

受講いただける方には、5月10日までに「受講仮決定通知」を送信しますので、講習名と受講料をご確認ください。

※受講いただけない方にも、その旨を、ご登録e-mailアドレス宛にご連絡いたします。

### 3. 受講料振込み、本受講申込書の提出

通知により受講可能な講習をご確認のうえ、記載されている振込先に受講料をお振込みください。

また「本受講申込書」と「事前アンケート」をHPよりダウンロードのうえ、郵送にてご提出ください。

※本受講申込書には先生方の所属する学校・幼稚園の校長先生・園長先生の署名・捺印(公印)が必要となりますので、余裕をもってお手続きされることをお勧めします。

※証明写真を2枚ご用意ください。1枚は「本受講申込書」に貼付しご提出していただきます。

もう1枚は後日郵送する「名札」に貼付して、講習当日にお持ちください。

### 4. 受講の本決定通知

受講料の入金と書類の提出を確認後、6月中旬頃までに、「受講決定通知」「受講票」「名札」「受講の手引き」

等をご登録e-mailアドレス宛へのご連絡を通してWebにてご案内いたします。講習名や時間などをご確認ください。

## ◀ ここまでの手続きにより受講が決定されます。 ▶

※講習当日は「受講票」と「名札」をお持ちください。

※修了(履修)認定までの手順等、詳細は「受講の手引き」をご覧ください。

※受講決定後に止むを得ずキャンセルされる場合は、至急ご連絡ください。受講日前日までにご連絡いただいた場合、受講料は返金いたします(返金に関わる手数料等を除く)。

◆ 講習日程 ◆

日程	講習名・講師	時間	定員	職種	主な対象	
<b>必修領域 6時間</b>						
8月2日 (木)	『教育の最新事情』 井上 兼生 (政治経済学部政治経済学科特任教授) 寺崎 恵子 (人文学部児童学科准教授) 井上 知洋 (人文学部児童学科助教)	6	150	教諭 養護教諭 栄養教諭		
<b>選択必修領域 各6時間 ※下記講習のうち1講習を選択</b>						
8月3日 (金)	『子ども虐待の理解と対応』 中谷 茂一 (心理福祉学部心理福祉学科教授) 取り扱い事項: 「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」	6	50	教諭 養護教諭	幼小 中高 特支 養護	
	『学校の内外における連携協力』 丸山 綱男 (人文学部児童学科客員教授) 取り扱い事項: 「様々な問題に対する組織的対応の必要性」 「学校における危機管理上の課題」	6	30	教諭	幼小 中高 特支	
	『小学校英語教育』 東 仁美 (人文学部欧米文化学科教授) 小川 隆夫 (人文学部児童学科客員教授) 取り扱い事項: 「英語教育」	6	30	教諭	幼小 中高 (英語) 特支	
	『異文化間教育』 佐藤 千瀬 (人文学部児童学科准教授) 取り扱い事項: 「国際理解及び異文化理解教育」	6	40	教諭 養護教諭	幼小 養護	
	<b>選択領域 各6時間 ※同日は開講講習のうち1講習を選択</b>					
	8月6日 (月)	『児童生徒の問題理解とその指導』 堀 恭子 (心理福祉学部心理福祉学科教授)	6	80	教諭 養護教諭	小 中高 特支 養護
		『保幼小連携等の体制理解及び保育相談』 市村 和子 (人文学部児童学科客員教授) 春木 豊 (基礎総合教育部特任講師)	6	70		幼小 養護
8月7日 (火)	『特別支援教育の基本理解』 齋藤 一雄 (人文学部児童学科特任教授)	6	100	教諭 養護教諭	幼小 中高 特支 養護	
	『一人一人の子どもの理解』 田澤 薫 (人文学部児童学科教授)	6	50		幼小 養護	
8月8日 (水)	『学校教育における情報機器の活用法』 加藤 裕康 (政治経済学部政治経済学科非常勤講師)	6	30	教諭	幼小 中高 特支	
	『教育現場における情報の倫理とセキュリティ』 渡邊 正人 (基礎総合教育部教授)	6	60		幼小 中高 特支	
	『音楽表現とアレンジの実践的アプローチ』 久保田 翠 (人文学部児童学科准教授)	6	30		幼小 中高 (音楽) 特支	
	『幼児らしい表現を考える』 相川 徳孝 (人文学部児童学科教授)	6	30		幼小	

◆ 講習内容 ◆

必修領域	<b>教育の最新事情</b>	<b>講師：井上(兼)・寺崎・井上(知)</b>
	<p>本講習では、免許状更新講習での必修領域である「教育の最新事情」における、「国の教育政策や世界の教育動向」（井上兼）、「教員としての子ども観、教育観についての省察」（寺崎）、「子供の発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」・「子どもの生活の変化を踏まえた課題」（井上知）について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。</p>	
選択必修領域	<b>子ども虐待の理解と対応</b>	<b>講師：中谷茂一</b>
	<p>子どもの問題行動の背景に虐待や発達障がい隠れている場合があり、保護者対応を含め苦慮している教員も多いと思われる。各種統計・映像資料を用いながら、現状と課題及び家庭・地域との連携による対応方法が具体的にイメージできるよう解説する。虐待の定義、関連法規・支援サービス、発達障がい児の特性、児童福祉施設における子どものケアについても扱う。</p>	
	<b>学校の内外における連携協力</b>	<b>講師：丸山 綱男</b>
	<p>本講習では、講義と演習を通して、次の2点について学ぶ。現職教員等が、学校内外の問題に対する組織的対応の必要性と学校における危機管理上の課題について理解を深め、新たな視点と展望を持って専門性と実践力を高める機会としていく。</p>	
必修領域	<b>小学校英語教育</b>	<b>講師：東・小川</b>
	<p>小学校における外国語活動・外国語の指導に必要な知識・技能・英語力について考え、学習指導要領を理解し、中学年の外国語活動及び高学年の外国語の主教材の趣旨・特徴・構成、効果的な使用方法を学ぶ。また、子どもの第二言語習得の特徴を指導に生かすことができるようにする。小学校英語教育の指導内容を体験し、発表活動や教室英語の演習も行う。早期英語教育に関心がある中高、幼稚園教諭の参加も歓迎する。</p>	
	<b>異文化間教育</b>	<b>講師：佐藤 千瀬</b>
<p>現在、「海外子女」「帰国児童」「外国人児童」等の数は過去最高を更新しており、新要領「総則」には「海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児の幼稚園生活への適応」が新設された。このような複数言語・文化環境で育つ子どもの言語発達、異文化適応等の理論を学び、長期的な視野を持って今、目の前にいる子どもたちの保育・教育と家庭支援をする際にどのようなことが大切になるのか、理論と実践を結び付けて考える。</p>		

選 択 領 域	<b>児童生徒の問題理解とその指導</b>	<b>講師：堀 恭子</b>
	昨今の児童生徒の抱える課題は、児童生徒個人の問題というよりは、個人とその環境との様々な関係性の上に生じていることが多い。本講習では、一つの課題に複数の視点をもって取り組むことや、「チーム学校」への理解を深めていくことを目標とする。参加者自身の経験への振り返りやワークから得られた実感を通して、ケースを多角的な視点から検討する実習を行う。	
	<b>『保幼小連携等の体制理解及び保育相談』</b>	<b>講師：市村・春木</b>
	就学の直前期は、幼児はもちろん、保護者や保育者も不安が募る時期である。就学は発達の日々だが、過剰に意識されると就学を心待ちにする幼児の思いがしばしば要因となり得る。この講座では、小学校で取組まれている保幼小連携の体制を具体的に学び、安心して就学に臨む手立てについて考え、あわせて、就学を意識した保育現場の困りごとに対する相談支援の考え方とその実際を学ぶ。	
	<b>特別支援教育の基本理解</b>	<b>講師：齋藤 一雄</b>
	特別支援教育の基礎となる障害のとりえ方について、国際生活機能分類の考え方を紹介する。また、通常の児童生徒を対象にした絵本や映像を使った障害理解教育とインクルーシブ教育システムとはどのようなものかを概説する。そして、通常の教科を中心とした教育課程とは異なり、生活を中心とした知的障害児の教育課程について、基本的な考え方や日課表と実践事例、教科書、教材例などを紹介する。	
	<b>一人一人の子どもの理解</b>	<b>講師：田澤 薫</b>
	一人一人の子どもの意思是、言動を見取りその意味を省察することで汲み取ることができるようになる。言葉で伝えられず、何を考えているか、何に困っているかわからない子どもの思いに気づき、保育・教育に活かせる理論と方法を具体的な事例から学び、事柄を子どもの論理で捉える見方を磨く。見えにくい貧困等、家庭的な背景についても学ぶ。	
	<b>学校教育における情報機器の活用法</b>	<b>講師：加藤 裕康</b>
	子どもたちは情報社会の中で生まれ、育ってきた。そのことを直視し、単純に否定するだけでも怖がるだけでもない、情報社会の荒波を乗り切るための主体的な態度を身につける場としたい。そのような多角的な視点をベースにした上で、情報機器を使って学習教材を作成、活用する方法を学ぶ。	
<b>教育現場における情報の倫理とセキュリティ</b>	<b>講師：渡邊 正人</b>	
現代社会での情報化の進展に伴い、教育現場でも情報化への対応が課題となっている。本講習ではそれによって深刻化するネットいじめなどをはじめとした「情報モラル」、著作権などの「教育におけるICT活用」を中心に情報化のあり方と問題点を考える。また、生徒児童が日常触れる情報機器に潜む危険性とそのセキュリティ教育、といったことや、学校だけではなく家庭における理解と協力、などについても学ぶ。		
<b>音楽表現とアレンジの実践的アプローチ</b>	<b>講師：久保田 翠</b>	
教育現場において音楽を演奏・指導するための、幾つかの実践的技術を学ぶ。ピアノ演奏に関する基礎的事項を振り返りつつ、「難しいピアノ伴奏譜を演奏しやすいよう簡略化する」「幼児の声域にあわせて転調して伴奏する」「楽曲を合奏用にアレンジする」といった技術を、個々人の力量にあわせた形で身につけることを目標にする。		
<b>『幼児らしい表現を考える』</b>	<b>講師：相川 徳孝</b>	
新幼稚園教育要領の領域「表現」に示されている「自分なりに表現すること」とはどのようなものか。また、幼児のありのままの表現が主体的にできるようになるためには、どのような支えが必要となるのだろうか。幼児の表現の基本的な事柄を再確認しつつ、幼児期の終了までに育ててほしい姿を見据えて、いろいろな表現活動を実践的に体験することを通して幼児に適切な指導方法について考える。		

## ◆ 受講料及び納入期限・方法

### = 受講料 =

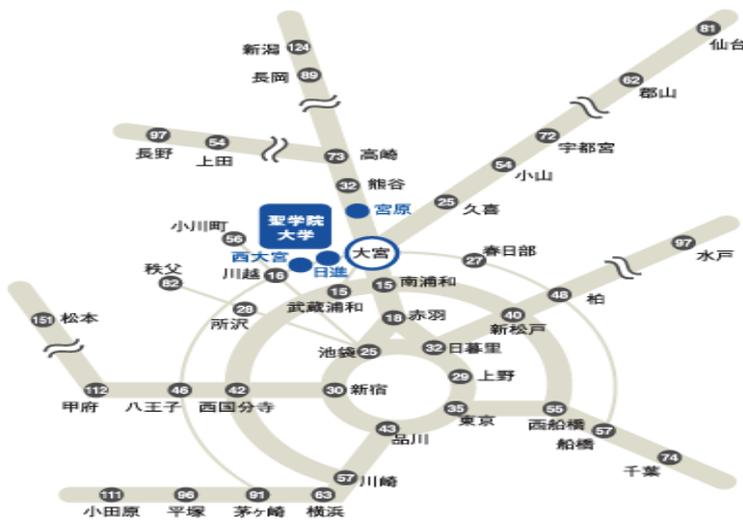
- ・ 必修領域：6,000円  
(1 講習 6 時間)
- ・ 選択必修領域：各講習 6,000円  
(1 講習 6 時間)
- ・ 選択領域：各講習 6,000円  
(1 講習 6 時間)

◎ 本学にて講習時間の全てを満たす場合は  
30,000円になります。

受講料納入期間および納入方法については、「受講仮決定通知」に記載いたしますので、指定の銀行口座へお振込ください。  
なお、振込手数料は受講者負担となります。また振込の際のご利用明細をもって、本学の領収証とさせていただきます。  
(補助申請等により領収書が必要な場合、事務局にご相談ください。)

受講料納入期間内にお振込いただけなかった場合、「本受講申込書」が提出されていても、受講の意思のないものとして受講仮決定を取り消させていただきます。

## ◆ 聖学院大学までのアクセス



バス：JR 宮原駅(西口)・JR 西大宮駅(北口)からは、学生バスも運行しています。  
徒歩：JR 宮原駅(西口)・JR 日進駅からは徒歩 15 分程度です。  
お車の方は、学内駐車場をご利用いただけます。